



し、面積は現行より270平方メートル広い740平方メートルとなる。総工費は1億5600万円。このほか救急車1台や医療機器も購入する。

来年度は中央棟5階に約10床の救急病棟を新設する。9月末に工事を終える予定だ。

整備完了後は、救急隊が各病院に受け入れ

を要請し、おおむね3回断られた患者を市民病院でいったん引き取る。治療の間、担当職員が救急用の空き病床を備えた「支援病院」

の中から転院先を探し出し、容体が安定した後、後に治療を引き継ぐ。

支援病院には市内と府中町の計27病院が登録。市は1病床当たり

1日2万9110円を上限に補助する。市民病院の体制面から救急医療コントロール機能は当面、内科と脳神経外科の患者に限る。

市民病院の荒木康之副院長は「施設整備と並行して医師確保に努め、効果を上げたい」と話している。

(田中美千子)